水稲栽培管理情報第１号

栽培計画・播種前作業

（適切・効率的な栽培管理の基本を徹底しましょう！）

1．田植は計画的に　～標高・熟期・出穂後の平均気温に注意～

ポイント

1）品種・標高別の一般的な田植の適期

品種＼標高	0～100m	100～200m	200～300m	300～400m	400～500m	500～700m
ひとめぼれ				5/20～30	5/15～25	5/5～15
つや姫	6/20～30	6/15～20	6/5～15			
ヒノヒカリ				5/25～6/5	5/5～15	

・早過ぎる田植は、出穂後の高温による乳白米多発等の原因となることがあります。収量・品質向上のため、田植は適期に行いましょう。

2）田植の順序

・早生品種（ひとめぼれ、つや姫等）と中生品種（ヒノヒカリ等）を組み合わせて作付する場合は、早生→中生の順に田植を行うことが一般的です。
高標高地では、出穂後の平均気温低下による登熟不良を避けるため、出穂の遅いヒノヒカリ等から先に田植を行いましょう。

2．播種前に行う作業　～育苗の成否を決める助走期間！～

ポイント

1）種子選別　※沈む籾＝出芽の良い種

米の種類	比重	使用量（ｋｇ）／水１０Ｌ 食塩	使用量（ｋｇ）／水１０Ｌ 硫安
うるち（粳）	１．１３	２．０	２．９
もち（糯）	１．０８	１．２	１．６

・水１０L当たりの食塩は、米の種類に応じ適正に使用しましょう。
・種籾に塩分が残っていると発芽が上手く行きません。選別後に十分水洗いし種籾の塩分を落としておきましょう。

2）種子消毒　※種籾の病気・害虫を防ぐ第一歩

①殺虫・殺菌剤を溶かした薬液に２４時間浸漬　＊まず確認、農薬ラベル！
②温湯処理機の場合は、取扱説明書に従い浸漬　＊処理時間・温度・籾の量に注意！

3）浸種・催芽　※この期間で播種後の生育がほぼ決まります！

①水槽の中身は「種籾」と「種籾の2倍以上のたっぷりの水」に
　＊一度に多くの種籾を浸けると、酸欠により出芽不良になります！
②網袋に詰める種籾は、袋の７割程度が上限
　＊①と併せ、種籾が水に十分触れるようにしましょう！
③水は原則として水道水を使用し、毎日交換
　＊水道水でも、掛け流しでは消毒効果を損ねるので×！
④浸種日数＝100℃÷水温（10℃以上）≒７～10日
　＊水温を一定に保つため、催芽は直射日光の当たらない場所で行いましょう！
⑤鳩胸状態（上写真参考）＝籾から僅かに芽が出た状態となったら催芽完了
　＊期間中は、種籾を毎日確認しましょう！

お問い合わせ先：大分県中部振興局　集落営農・農地活用班　電話０９７－５０６－５７９１
大分県農業協同組合〇〇部事業部　電話〇〇〇－〇〇〇－〇〇〇〇